

平成 28 年度第 2 回堺市堺区区民評議会 主な意見

1 大道筋における「場」づくりの取組について

- ・ 昨年の区民評議会での議論内容や課題意識など、共通認識をもって大道筋の場において議論していただくことも必要。評議会の意見を具体化できるようにもっていく必要がある。区民評議会と大道筋の場が連携しつつ、議論を深める必要がある。
- ・ 集まった人が自分の知識を向上させながら、どのような取組を進めていくのかを考えられる組織にする方がよいのではないか。
- ・ 討論する場ができあがって、その中で具体的にものごとができあがっていく場にしていくことが重要。
- ・ 大道筋だけではなく、もう少し広い範囲で考えていくことも必要。

2 町家の保全・活用のあり方について

検討の方向性

- ・ 大道筋と町家を別々に考えるのではなく、大道筋をメインテーマとして、その中の町家との位置づけで議論をしていく方がよいのではないか。寺などテーマを絞って議論していくことも必要。
- ・ 大道筋のような通りは他になかなかないので、もっと売り出していく取組を進めることが必要で、そのために、町家など、いろいろな資源を関連させて考えていけばよいのではないか。
- ・ 町家の保全・活用ではなく、大道筋の賑わいづくりや歴史的・文化的資源を活かしたまちづくりという視点に広げ、議論を深めていくことが望ましい。

各 論

- ・ まちなみ協議会など、それぞれの地域でやっていることを区民評議会としてバックアップしていくような提案をしていくことが望ましいのではないか。
- ・ 企業も観光に力を入れているので、その動きを活用することができないか。例えば、大型商業施設と連携した観光コースを設定するなど、施設に集客する人に対し地域の歴史・文化に関心をむけさせることも考えられる。
- ・ ビジュアルで見るのが一番わかりやすい。このたび、刃物ミュージアムがオープンになるが、外観が町家風となっており、景観がそろっている。こういう動きを区として表彰するなど、自ら取り組まれていることにインセンティブを設けてはどうか。そうすることで、区民の意識を高まるのではないか。
- ・ 大道筋を拠点にいろいろな取組が進む中で、観光だけでなく、住んでいる人にとっても居心地のよい景色になるなど、居住している人にとってもよいイメージを与えるものになった方がよい。

- 町家の活用にあたっては、ステップを踏んで取り組むことも考えられる。例えば、町家を改装し、遊び場や学びの場をつくることで、放課後の子どもたちをサポートすることも考えられる。そして、サポートする人として、地域の高齢者や大学生なども参加することで、地域の活動の場となるのではないか。このようなステップを見せることを通して、地域貢献に役立つなら、空き家のままでおいておくより、使ってもらいたいとの意識も高まるのではないか。また、大学生など協力してくれる人が参画することで、地域の人と顔見知りとなることで信頼も得やすくなり、仮にそこで起業などをしようとした人がいれば、そのハードルを下げることにつながるのではないか。